

---

# ピノ子

利々夢

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ピノ子

### 【Nコード】

N1449H

### 【作者名】

利々夢

### 【あらすじ】

みなさんの子ども時代は、どんな子どもでしたか？ちよっぴりおませなピノ子は、何の変哲も無い日常を、今日も元気に暮らしています。でも、普通の子どもとは何かが違うみたい！？ピノ子のほの生活のはじまりです。

わたしはピノ子。3才。

わたしのおうちはね、まちのはじっこのおうちがたくさんならんで  
いるところにあって、

2かいだてのあおいやねのおうちなの。

おにわには、しばふとお花がたくさんあって、これがわたしのじま  
んなの。

あ、そうそう。

わたしは「じまん」っていうむずかしいことばも、ちゃんとしって  
るの。

えらいでしょ？

おかあさんはね、まい日ぼうしをかぶって、手ぶくろをはめて、お  
花のお手入れをするの。

わたしは近くで見ていたんだけど、いつもおうちの中でおるすば  
ん。

土をさわったらよごれるし、あやまってたべたら大へんだから、お  
かあさんはそれをしんぱいしているみたい。

だいじょうぶなんだけどなあ。

そのかわり、わたしにはとくべつなせきがあるのよ。

それは、げんかんのおくのまどが出っぱったところよ。

おにわのようすが、ぜんぶ見えちゃうんだから。

\* \* \*

ある日のわたしはおるすばん。  
いつもの出っぱっているまどでおるすばん。  
そしたら、しばふのせんたくものをほすぼつの上にカラスが止まっ  
たの。

あいつはてんてき！おいかえさなきゃ！

「てんてき」もむずかしいことばだけど、私はちゃんと伝えるよ。

わたしがカラスにおこって見せると、カラスはだまってしらんかお。  
もう一ど大きくおこってみただけど、やっぱりカラスは知らんかお。

「おっかないかおで、ガラスのむこうからにらんでも、全ぜんこわ  
くないよ」

って言ってるみたい。

しばらくカラスはそこにいて、私とずーとにらめっ子。

だけど3回目になたしがおこってみせたら、ようやくカラスはにげ  
ていったわ。

ふう…これで一あん心。やく目をちゃんとはたしたわ。

どう？わたしはとってもいい子なのよ。

「やく目」っていうのもしってるんだから。

\* \* \*

つぎの日のあむ。

…おはよう。ちよっとねむい。

えーと、わたしはいつも、おかあさんのへやに行って、おかあさん

をおすの。

えらいでしょ？

ベットはたかいけど、ジャンプをすればへっちゃらよ。

見ててね。

よっこいしょ。

…あらら。

足がふらふらして、上手くのぼれない。

よし、もう一回。

よっこいしょ。

よし、かんぺき！

そして、おかあさんのおふとんにもぐって、おなかをさわったり、

おかおをさわったり。

でも、めずらしく、きょうのおかあさんはなかなかおきてくれない。  
きのうお出かけたから、つかれているのかなあ。

4

わたしはおふとんの中を行ったりきたり。

一人でちよつと、つまんない。

でも、おふとんはあつたかくて、だんだん気もちよくなってきた。

んー！。おかあさんもまだねているし…。

…。

何分たつたかわからないけど、そのままわたしはねてしまいました。

\* \* \*

またつぎの日。

わたしはおかあさんといっしょにおさんぽをしたの。  
外はいいお天き。

コンクリートのどろろはちょっとあついけど、つめたいゆきの上よりはあるきやすいわ。

おうちにかえってきたら、ちかくにすんでいるユリちゃんトシくんにあったの。

ユリちゃんはおねえちゃん、トシくんはおとうと。

ユリちゃんはわたしをだっこしてくれるのが上手なのよ。  
せなかをやさしくなでくれるもん。

でもトシくんのだっこはきらい。

足がちゅつぶらりんになって、おっこちちゃいそうなんだもん。

一回ほんとうにおちたときがあったわ。1メートルくらいのたかさから。

けがはしなかったけど、いたかったんだからね。

だけど、やつぱり…。

ーばんだっこが上手なのはおかあさん。

いつのまにか、うでの中でねちゃったことが何どもあったわ。

そんなことをかんがえていたら、

ユリちゃんとトシくと、わたしのおかあさんのおしゃべりがおわったみたい。

さいごの、おわかれのときは、いつもバイバイ。

おかあさんのかたの上で、おかあさんにまえ足をつかまれてわたしもバイバイしたわ。

\* \* \*

わたしはピノ子。3才。

「ピノ子！。ご飯よ！。」

おかあさんのやさしいこえに、きょうも「ワーン！」とげんきよく入  
んじをしました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1449h/>

---

ピノ子

2010年10月8日23時11分発行